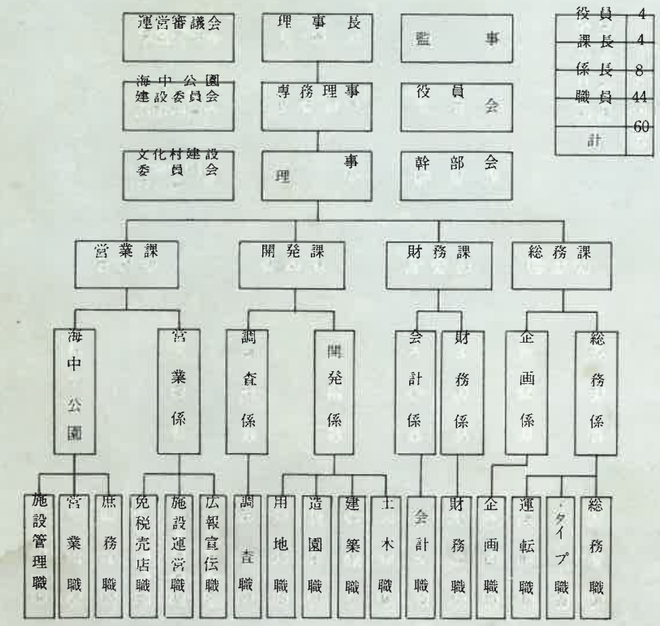
沖縄観光開発事業団のしおり

1970年

■ 沿　革

1967年９月４日・沖縄観光開発事業団法（1967年立法第107号）成立。
1968年１月１日・理事長 渡名喜守定、監事 宮良薫、行政主席より
指命。
１月４日・沖縄観光開発事業団設立登記、理事長及び監事就任。
１月６日・運営審議会発足（委員10名、会長 大山保表）
専務理事 久手堅憲睦就任。
５月18日・那覇港、泊港に免税売店（高級洋酒、煙草販売）開設。
泊港免税売店は観光案内所を兼ねる。
1969年２月１日・屋我地釣センター着工。
３月６日・旧海軍司令部壕修復工事着工。
３月20日・理事 安里清信就任。
５月29日・沖縄海中公園起工式。
６月25日・屋我地釣センター竣工。
９月３日・沖縄海中公園建設委員会発足。
（委員10名、会長 高良鉄夫）
11月27日・沖縄文化村建設委員会発足。
（委員15名、会長 安谷屋正量）
1970年１月４日・監事 宮良薫再任。
1970年２月28日・旧海軍司令部壕修復完成。
３月７日・那覇港免税売店新築完成。
４月２日・太平洋観光協会（ＰＡＴＡ）に準政府会員
入会。
５月22日・海中展望塔落成式。
８月８日・沖縄海中公園営業開始。

1971年度沖縄観光開発事業団機構図



役員	4
課長	4
係長	8
職員	44
計	60

沖縄観光開発事業團
那覇市松尾117 の３ / 電話４－6331～6333

■御　挨　拶

沖縄観光開発事業団は沖縄観光開発事業団法（1967年立法第107号）に基づき「政府の観光政策に即応して観光資源の開発、観光施設の整備を図ると共に、観光旅客を促進することにより観光事業の振興を図ることを目的」として、1968年１月４日に発足しました。

琉球政府は長期経済開発政策の中で観光事業を重要産業として位置づけていますが、近年の沖縄の観光事業の進展には著しいものがあります。戦跡地巡拝に始まった沖縄の観光は、ショッピング観光ならびに本土を含む太平洋地域のレストアンドリクリエーションおよび思索し知る観光地へと進展しています。

当事業団はこれまでに「那覇港および泊港における免税売店」釣観光のための「屋我地釣センター」恒久平和を祈念するのに最もふさわしい「旧海軍司令部壕」を完成し、さらに沖縄の勝れた海中自然景観が見られる海中展望塔を主体とする「沖縄海中公園」を建設してきました。また沖縄の誇りとする有形無形の文化を集約し沖縄の文化を１日で紹介する「沖縄文化村」の建設も進めています。

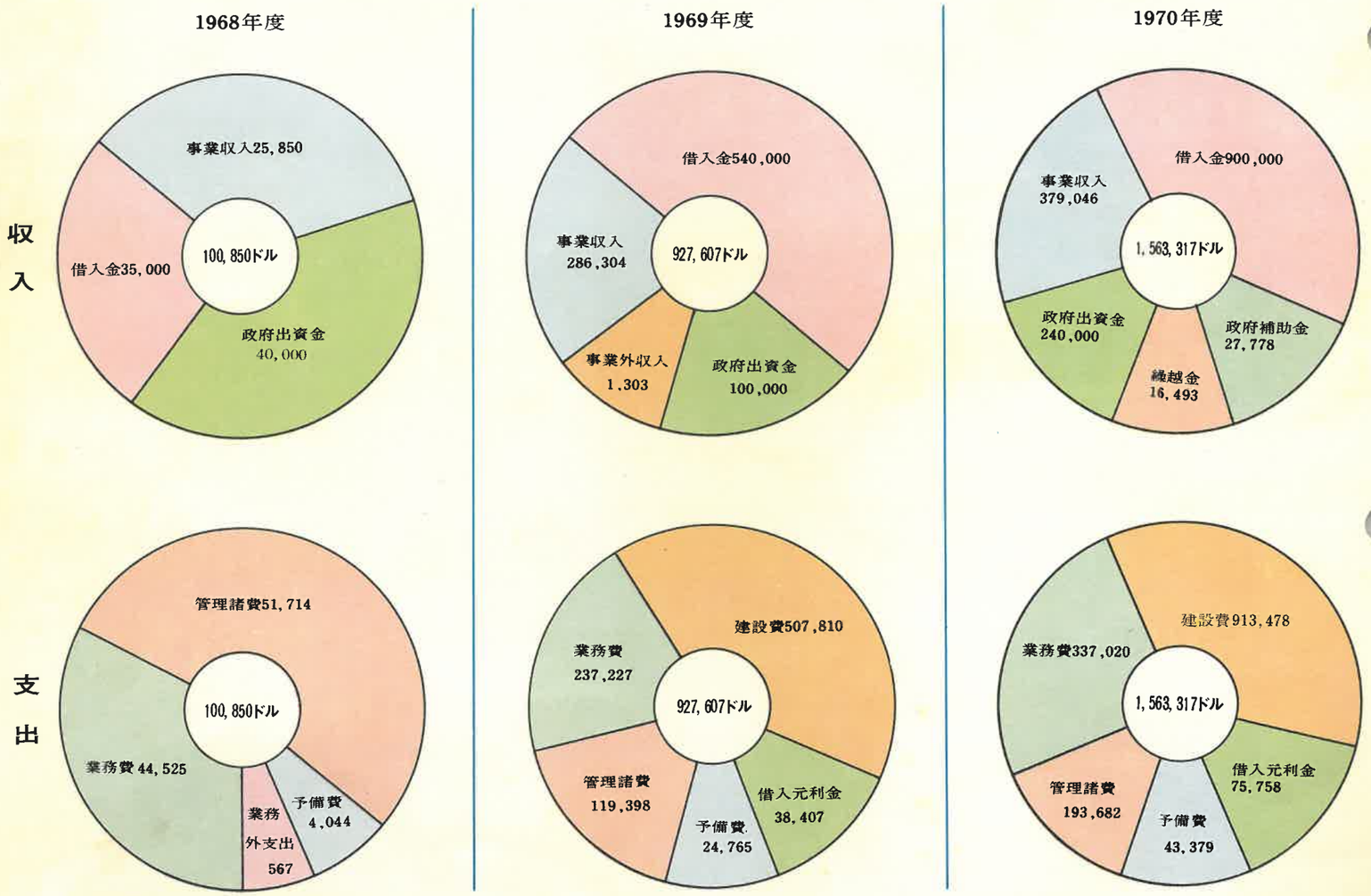
観光事業は今後益々発展しますが、これに対処して量的にも質的にも、新しいアイデアをもって積極的に開発されなければならない重要な時期にあたり当事業団としては今後とも観光立県の旗印の担い手として観光事業振興のため、鋭意努力致したいと存じますので皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

1970年７月　　沖縄観光開発事業団

理事長　浦名善守定

■ 事業概況

事業を行なうための予算は政府出資金、事業収入、及び資金運用部からの借入金で構成されている。



■屋我地釣センター

四面海に囲まれた沖縄は、いたるところ魚が豊富で、年中釣りが楽しめる。中でも屋我地内海は魚の宝庫で、この好漁場を控えてできたのが「屋我地釣センター」である。これは約1千万人といわれる本土の釣りマニアを沖縄に誘致し、釣り観光を振興させるための施設として建設したもので、鉄筋コンクリート二階建（1階食堂、2階6畳10室）30人が宿泊できる施設である。また12人乗り大型快速釣ボート1隻と、7人乗り数隻、釣具、エサなどを常備し、ウイークエンドには風光明媚な屋我地内海で釣りを楽しむ人達でにぎわっている。

■沖縄海中公園

沖縄は亜熱帯に属し、年中温暖な気候で、観光地としての条件に恵まれ、特に海を中心とする自然景観はその多彩な色で世界にもまれといわれている。海面は礁湖に共通のコハク色、サンゴ礁の部分は紫色、リーフの部分から外側は紺ぺきと変化にとんで、まるで絵のようである。「観光立県」をめざす沖縄にとって豊富な海中資源の開発こそ今後の課題といえる。

沖縄海中公園は、この特性を生かして屋内外に各種の施設を建設し、魅力ある観光地を造成することによって外客の誘致と地元住民の教養とリクレーションの場を形成するものである。

この公園の特徴は、海中展望塔を設置したことである。現在、世界的に宇宙開発、海洋開発及び利用計画が進められており、特に海洋の開発は今後急速におし進められようとしている。海中展望塔は、これら時代の要求に応えたもので、経済的効果だけでなく、学術的にも意義があり、特に沖縄の海洋観光開発への貢献は測り知れないものがある。

海中公園建設は、総額200万ドルを投じて３ケ年計画で完成する。

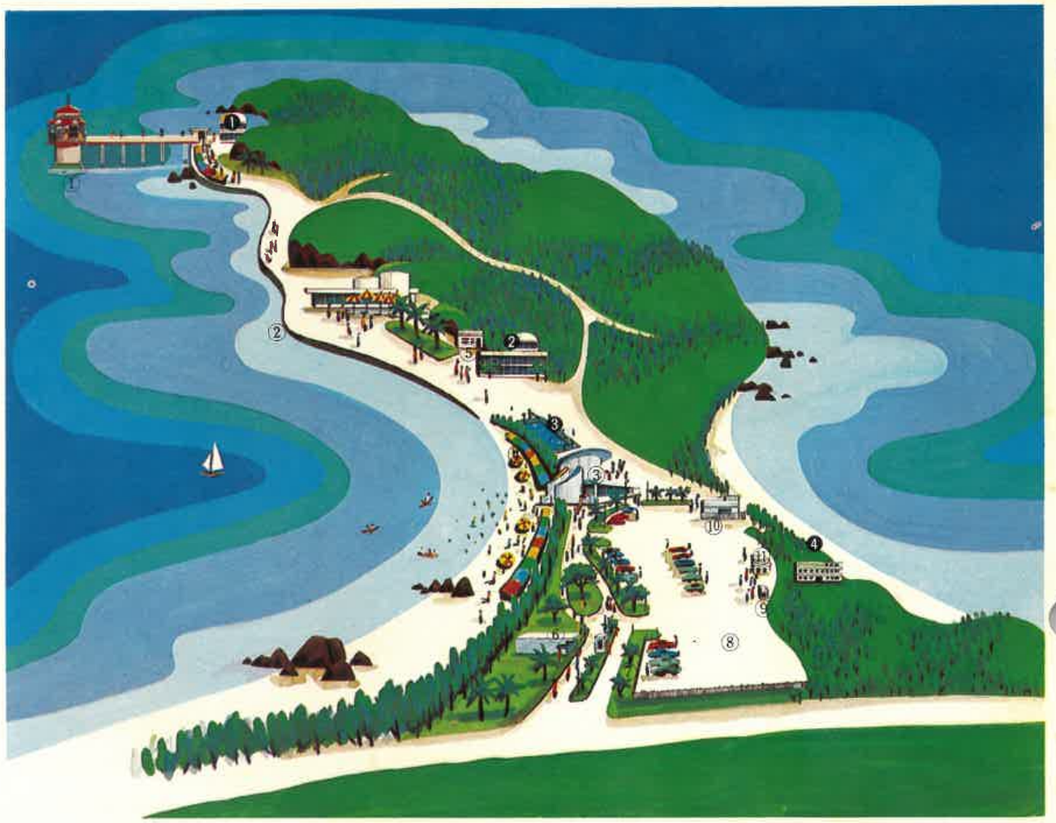
1969年度を第１次として、用地の確保、海中展望塔建設計画に着手し、海中展望塔は、1970年５月22日に落成した。

1970年度（第２年次）は敷地造成、造園、電気給排水等の基盤施設を整備し、ビジタースゲイト、レストラン、ビーチハウス、レストハウス等の建設を行い1970年８月８日オープンした。

1971年度（第３年次）は、ハイスライダーを備えた総合レジャープール、貝殻展示館の建設、植樹等の施設整備を行なう。

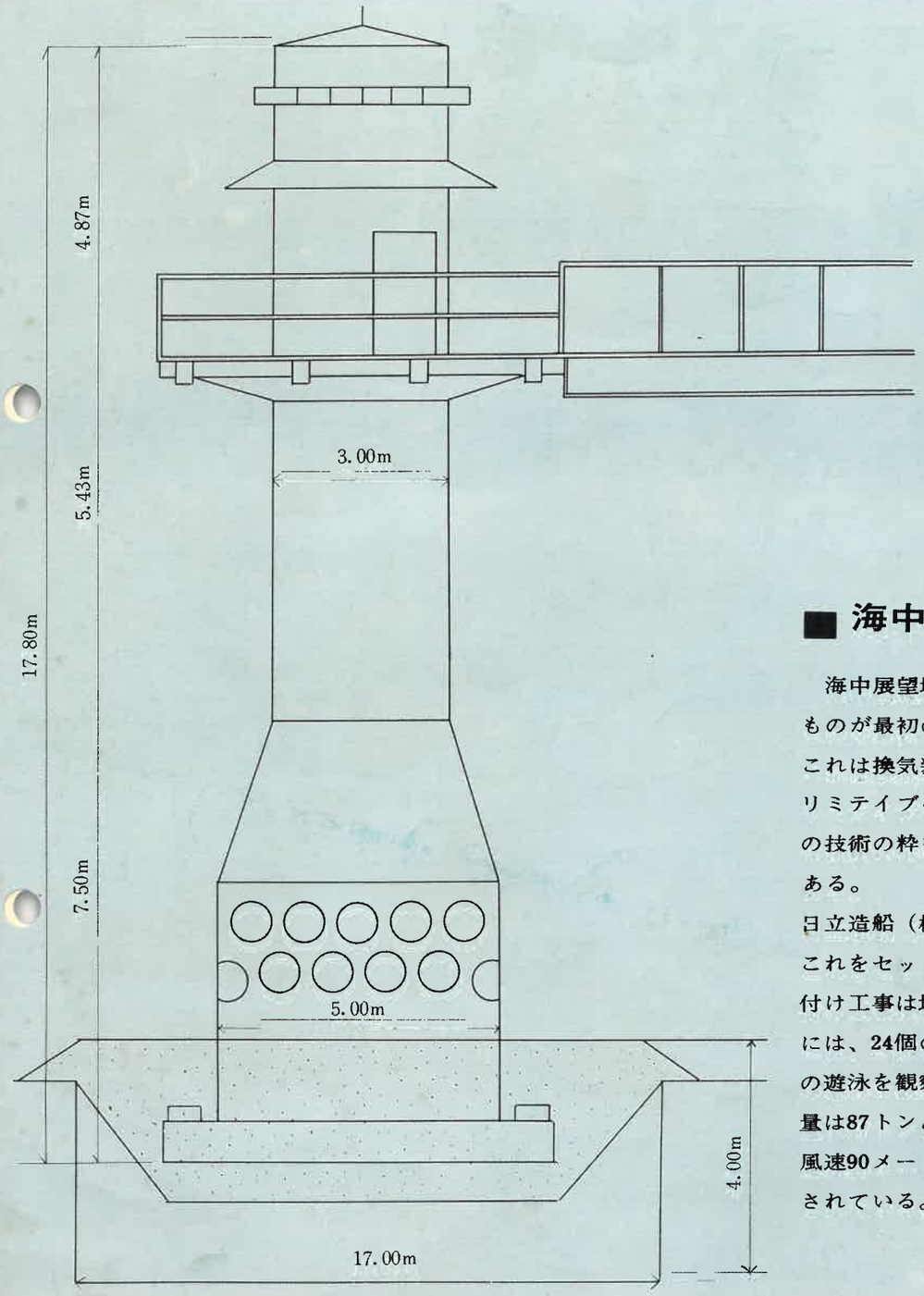
なお海中公園施設の一環として水族館及び国民宿舎を建設する。

案内図



①海中展望塔 ②岬食堂 ③ビーチハウス ④テントハウス ⑤変電所 ⑥ビジタースゲート ⑦カーチエック ⑧駐車場 ⑨公園トイレ ⑩汚水処理場 ⑪浄水場

完成予想図 ❶レストハウス ❷水族館 ❸プール ❹国民宿舎



（注）

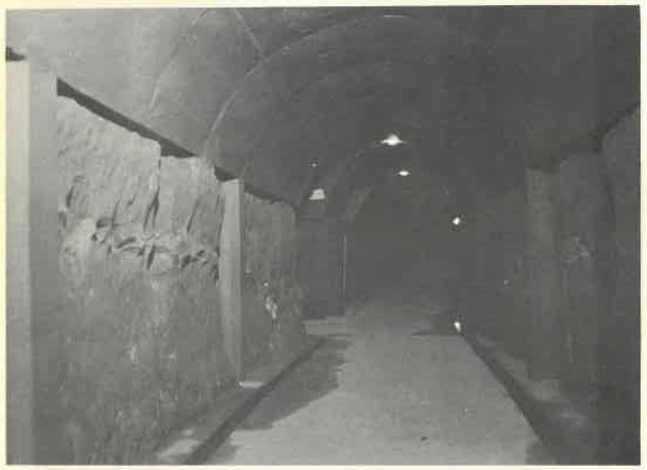
総重量	87ton
高さ	17.80 m
塔体直径	大 5 m
	小 3 m
塔体基礎直径	17.00m
〃 深さ	4.00m
展望室丸窓	直径30cm 24個
陸橋長	約170m位
収容人員	海中展望塔30名
	展望台 30名

■ 海中展望塔について

海中展望塔は、オーストラリアに14年前に建設されたものが最初のものである。

これは換気装置等に改善すべきところがあり、極めてプリミテイブなものであるが、当事業団のものは近代日本の技術の粋を生かし設計されたもので、世界的なものである。

日立造船（株）が展望塔の塔体製作と基礎工事を行ないこれをセットし、展望塔にいたる170mの桟橋の製作と据付け工事は地元業者が行なった。直径５ｍの海中展望塔には、24個の窓があり、そこから海中のサンゴ、熱帯魚の遊泳を観察する。塔は鋼板製全溶接円筒構造で、総重量は87トンあり、過去の気象データーを慎重に検討して風速90メートルの暴風雨及び波浪にも耐えるように設計されている。



■ 旧海軍司令部壕

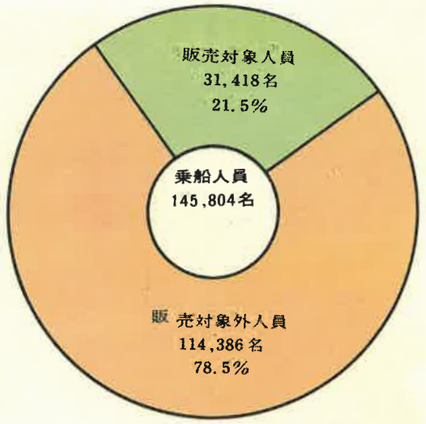
海軍戦没者慰霊之塔

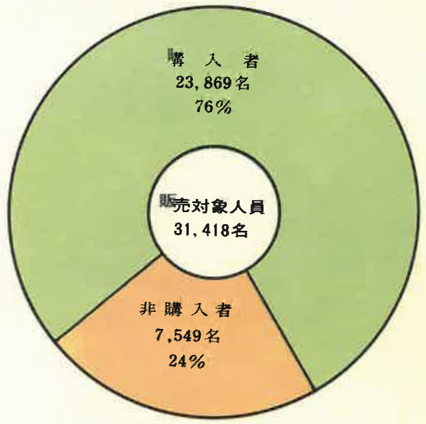
この壕は太平洋戦争中、沖縄方面根拠地隊司令部のあった場所で、司令官大田実中将以下、将兵約4,000名が壕内で壮烈な最期を遂げた。くわや、つるはしで掘った壕には、司令官室、作戦室、幕僚室、医療室等が当時のままの姿で残されている。特に司令官室の白壁には、「大君の御はたのもとに死してこそ、人と生まれし甲斐ぞありけり」の司令官の辞世の句が記されており、恒久平和を祈念するにふさわしい戦跡として永久に保存するものである。

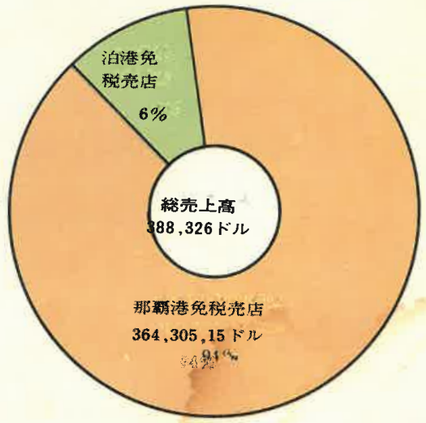
■免税売店

従来、那覇国際空港にしかなかった免税売店（高級洋酒、煙草販売）を船舶利用者のため、1968年5月に設置して以来、船舶利用の外客から好評を得ている。

1970年度には販売対象人員の76％が免税売店を利用し、388,326ドルの売上げで、前年度に比べて27.5％の増加である。







①中城城跡 ②おもろの家 ③民具の家 ④レストハウス ⑤民芸博物館 ⑥劇　場 ⑦織物の家 ⑧工芸指導所 ⑨陶器の家 ⑩漆器の家 ⑪紅型の家 ⑫琉球料理の家 ⑬売　店 ⑭砂糖小屋 ⑮厠　屋 ⑯お祭り広場 ⑰レストハウス ⑱展望台 ⑲駐車場 ⑳事ム所 ㉑厠　屋 ㉒門 ㉓民家の集落 ㉔石橋 ㉕山原船 ㉖サバニ

■ 沖縄文化村

沖縄固有の歴史、民族文化の古い伝統の中で培かわれてきた風俗、民芸は文化、学術上価値が高く、内外から極めて高く評価され多大の関心が寄せられている。

紅型、漆器、陶器、織物等の加工工程を紹介する施設、古式豊かな琉球舞踊、古典音楽を演じる劇場、独特の琉球料理の味覚の提供、又15・6世紀沖縄民族の海外発展の偉業を偲ぶ帆船ハーリーや、特色ある地方の民族行事等、本土に見ることのできない沖縄古来の有形無形の文化を一地域に集約し「沖縄の文化を一日で」紹介する施設は、これらの勝れた文化を永久に保存すると共に、内外に沖縄の文化に対する認識を深め、もって沖縄観光の魅力を増大させるものである。

■ 施設案内図

屋我地釣センター
沖縄海中公園
辺戸岬
やがぢ
名護
ぶせな
石川
嘉手納
コザ
沖縄文化村
なかぐすく
那覇
とみぐすく
那覇港免税売店
泊港免税売店
旧海軍司令部壕